

中部教育事務所だより

発行所 群馬県教育委員会事務局
 中部教育事務所
 発行人 加藤 隆浩
 発行日 令和8年3月2日
 〒371-0051 前橋市上細井町 2142-1
 Tel.(027)232-6511

【学校教育係 指導】 非認知能力育成 指定校事業

玉村町立南中学校「教職員も 生徒も 保護者も挑戦！」3年間の軌跡

玉村町立南中学校では、令和5年度から令和7年度の3年間、非認知能力育成指定校として、「夢や目標をもち、それを実現するために頑張れる生徒」を目指し、様々な取組を行ってきました。「教職員も生徒も挑戦!~イノベーションを起こせ大作戦~」という組織スローガンの下、一つ一つの実践を「挑戦」と題し、教職員や生徒、保護者の意識改革を図ることで、全員が「挑戦」を楽しむ学校風土が醸成されています。

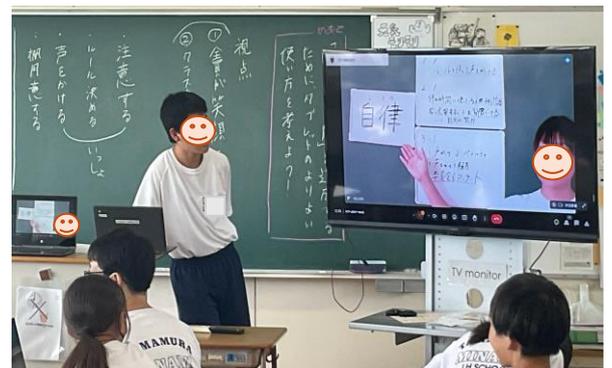
「学校をよりよくするのは自分たちである。」そんな強い思いを持って一致団結し、試行錯誤を繰り返しながら理想の学校「創り」に向けて3年間に駆け抜けた、南中学校の教職員、生徒、保護者の方々のエージェンシーあふれる実践をご紹介します。



挑戦第1弾

生徒の自律的学びを育む学校全体型アクティビティの構築 - 全校学活を核とした「理想の南中」創造プロセス -

南中学校では、生徒一人一人が学校「創り」の主体となり、自らの学びを構築していくエージェンシーにあたるものを、「自律」「つなぐ」「グリット(「やり抜く力」などを表す語)」の3本柱に決めました。それらの育成を最上位目標に定め、まず取り組んだのが理想の南中「創り」の核となる、全校スローガンの創出です。生徒会からのトップダウンではなく、個々の願いを抽出し、全校学活を通して、共有・整理されたボトムアップ式スローガン、「全員で笑顔」は、学校全体の共通目標であるとともに委員会・学校行事・学年学級活動の行動指針として機能しています。また、この全校学活は、理想の南中「創り」へ向け「学校をよりよくするための一つの流れ」として位置付けられています。髪型などの校則のほか、日常生活で寄せられた課題や提案について、学校全体で考え話し合っていくことを通して、生徒の主体性や自律性を育成する原動力となっています。



挑戦第2弾

生徒の自律を育む複数担任制の探究 - 「南中モデル」構築に向けた実践的考察 -

指示を待つのではなく、自ら気づき・考え・正しく判断し、行動する生徒の育成に向け、全ての教職員が全ての生徒を支える協働的支援体制の構築を目的として、この制度が導入されました。一週間ごとにクラス担当を入れ替え、多面的・多角的な生徒理解に基づいた教育活動を展開することで、生徒の自律性・協働性の伸長だけでなく、「いつでも、どの先生にも相談できる」といった、生徒や保護者にとって安心感あふれる学級・学年体制が整えられています。



挑戦第3弾

自律した学習者を育てる数学科の挑戦 - 主体的な学びと再チャレンジ評価で考える力を伸ばす -

自律的な学習を促すため、数学の授業では、2名の教員が1クラスを①基本重視 ②自律挑戦重視 の2つに分け、生徒がいずれかを選択する「コース選択制」を行っています。単元ごと、あるいは学習の途中でであってもコース変更を可能としているため、生徒は自身のやる気に合わせて学習環境を選択することができます。また、従来の中間テストを廃止し、単元ごとのテストに切り替えるなど、学びの定着や細やかな見取りへの工夫もなされています。

単元テスト返却後、一定の期間を経て行われる再テストは、挑戦するかどうかの判断を生徒に任せています。得点が上がっても下がっても評価に反映されるということで、個々の一層の主体性発揮が求められる仕組みであるとともに、夢や目標に向かって頑張ろうとする生徒の意欲や前向きさをそっと後押しする場でもあります。



挑戦第4弾

生徒と教員の対話が育む「学び」の深化 - 南中 Channel の実践 -

「南中Channel」は、放課後に実施される希望参加制の対話活動です。この活動は、生徒と教員が互いをニックネームで呼び合うことを特徴としており、生徒と教員が対等の立場で語り合い、上下関係の枠を超えた信頼関係を構築することを目的としています。

また、「決定」ではなく、対話そのものに主眼を置くことで、心理的安全性の下、他者の意見に耳を傾け、コミュニケーションを楽しむ仕掛けとして成立しています。

さらに、「理想の校則とは」「理想の専門委員会とは」といったテーマで話し合われた内容を学校経営に反映することにより、生徒が自らも学校「創り」の一員であるという強い自覚を持つことにもつながっています。

吉田校長先生



未来へつなぐ最後の挑戦

生徒と教員の自律を育む学校経営 - 教員の自律と10年後の南中生をイメージして -

生徒の自律を育むために、南中学校では、身近な存在である教員が「正解を示す」だけでなく「正解のない問いに向き合い続ける」姿を生徒に示し、ともに考え挑戦していく存在でありたいと考えています。目まぐるしい変化を見せる現代社会で、他者と協働しながらしなやかに生きていく力を身に付けるには、教員の自律する姿を示すことが、生徒にとって最も確かで効果的な学びとなると捉えているのです。

この3年間、吉田 知宏校長が示す経営方針の実現に向けて、教員一人一人が持つ思いや専門性を生かしながら、具体的な手段や方法を全体で検討し、意思決定をしてきた南中学校。こうした協働的な取組は、各教員の職能成長を着実に促します。ここで培われた経験やスキルは、異動後の学校でも存分に発揮され、その効果が周囲へと広がっていくことでしょう。理想の南中「創り」に向け、邁進した生徒や教員の願いは着実に次代へと引き継がれます。自校だけでなく、この先の群馬県の学びが一層豊かになることを願って、南中学校の「挑戦」はこの先も続きます。

2月7日(土)、ぐんま教育フェスタにおいて、「ぐんまエージェンシースクール 2025」ミーティングが開かれた際、パネリストとして登壇した丸橋 弘弥教諭が、南中学校の3年間の取組について発表されました。令和8年度はこれまでの実践研究に関する成果を報告書などにまとめる一年となります。令和9年度は完成したものを「群馬モデル」として県内の学校へ横展開を行う予定です。

各学校におかれましては、エージェンシースクールとして今後、様々な取組を実践していく中で、ぜひ参考にさせていただけますと幸いです。



管内学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への地域展開に係る情報交換会

子供たちの活動を「地域全体で支える持続可能な仕組みづくり」の必要性を確認しました

現在、国の方針を受け、中学校の部活動は、令和8年度から13年度までの6年間の改革実行期間の中で、段階的に「地域展開」をすることが求められています。中部管内では、12月に「部活動地域展開に向けた情報交換会」を開催し、市町村教育委員会の担当者が集まり現状と課題を共有しました。



【共通の課題】

- 指導者の確保 ○安全体制づくり(保険の加入・施設利用・指導者研修等)
- 財源の確保と受益者負担について ○持続可能なクラブづくりとクラブ運営
- 専門性や競技力の向上と生涯スポーツとしてのクラブの在り方について 等

【文化部の地域展開についての意見】

- 吹奏楽部の地域クラブ化へ向けた取組の成果として、生徒も指導者も「多世代で活動できるよさ」や、「アンサンブルの規模が大きくなったからこそできる喜び」等音楽の楽しさや音楽の可能性を実感できたという声が挙がっている。
- 美術や茶道等は市民館・文化協会と連携することで受け皿を作りやすい。
- 既存の文化サークルに、子供の参加についての相談をし、つながりを広げている例もある。

【今後の市町村の取組として】

- 地域との継続的な連携会議による種目ごとの課題整理
- 地域クラブに関する家庭や学校への情報提供
- 群馬県指導者・サポーターバンクの活用
- 広域連携に向けた情報交換
- クラブ法人化に関する情報提供と伴走支援
- 文化部の受け皿となる団体との協議 等

運動部活動地域展開シンポジウム

テーマ「対話から見つける地域スポーツの仕組みづくり～群馬県の取組を一例として～」

今年度、群馬県が実施した実証事業及び「重点地域における政策課題への対応」の成果報告と、県内外の関係者との意見交換・情報共有の場として「運動部活動地域展開シンポジウム」が2月15日に高崎市で開催され、前橋市と吉岡町が群馬県の実証事業の取組例を発表しました。また、シンポジウムでは「これまでの部活動と地域クラブ活動では何が変わったか」について実証事業を行っている市町村から、運動部・スポーツクラブにかかわる生徒とその保護者が参加し意見交換をしました。

【前橋市の取組と特色について(※資料を一部抜粋)】

1 前橋市の現状



- 生徒数減少とニーズの多様化**
 - ・少子化により生徒数が年々減少
 - ・生徒・保護者の活動ニーズが多様化
 - ・部員不足で希望する活動が十分にできない状況が増加
- 大会で見られる具体的な課題**
 - ・合同チームの増加
 - ・定数割れによる数的不利な出場
 - ・入部直後の1年生が大会に出場するケース
- 学校現場での深刻な問題**
 - ・3年生引退後に大会出場が困難
 - ・廃部の増加
 - ・少人数で練習が成立しない部が多数
 - ・運動部入部率: 20年前80% → 現在65%へ低下
 - ・学校外クラブ・習い事への流出
- 教員の負担増**
 - ・複数部活動の掛け持ち
 - ・経験のない競技の指導
 - ・休日を含む活動で長時間労働化

3 前橋市の取組

③まえばしスポーツ・文化クラブの設立



『まえばしスポーツクラブ』は、公益財団法人まちづくり公社が新たに設立した地域クラブで、参加者の心身の健全な育成と相互の親睦を図ることを目的に、地域におけるスポーツ環境を整え、多様なスポーツ活動の機会を創出しています。

「休日の受け皿となる地域クラブと指導者を確保し、中学生が安心して活動できる環境を整える」ことを最優先目標として地域展開に取り組んでいる。また、部活動を行わない週休日を設け「中学生・多様な学びの日」として様々な体験イベントを積極的に開催している。

【吉岡町の取組と特色について(※資料を一部抜粋)】

私たちが目指す「新しい放課後」の姿

地域展開を「人づくり・町づくり」のチャンスととらえ、学校と地域が「共創」する。目指すのは、多世代・多種目の活動が共存し、吉岡町をさらに活気ある町にする、持続可能な地域クラブです。

「町ぐるみ」で支える運営体制



運営主体(運営事務局): 吉岡町教育委員会
 実施主体: 地域の団体
 吉岡中学校
 保護者
 指導者
 地域指導者
 公認指導者
 退職教員
 保護者
 兼職兼業の教師

地域展開を「人づくり・町づくり」のチャンスと捉え地域展開に取り組んでいる。また「既存資源の活用」をキーワードに、スポーツ少年団を核として、地域に存在する既存の組織や人材を効果的に活用している。